

令和 5 年 6 月 23 日現在

機関番号：23602

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00969

研究課題名（和文）20世紀後半の日本における社会運動の記憶の構造把握および継承に向けた資料学的研究

研究課題名（英文）Historiography of Social Movements in The Latter Part of The Twentieth Century in Japan : In Terms of Interdisciplinary Studies

研究代表者

相川 陽一（AIKAWA, Yoichi）

長野大学・環境ツーリズム学部・教授

研究者番号：90712133

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：21世紀を迎え、20世紀後半を対象とした歴史研究の重要性が増している。本研究は、1960年代から1970年代の日本社会で展開された社会運動について、研究機関や資料館等に収蔵された社会運動資料群の形成過程と全体構造を把握し、歴史学、アーカイブズ学、社会学の領域横断的な研究により、これらの史資料が有する学術的な意義を一次資料によって解明した。合わせて、資料の収集、整理、研究活用、展示活用の各段階における課題と対応方法を文書資料と視聴覚資料の双方について整理し、実証研究の射程を1970年代まで伸ばすことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、歴史学、アーカイブズ学、社会学の3分野が連携して、学術的な評価が定まり難かった高度成長期の社会運動について、一次資料に依拠した総合的な研究を行ったことにある。1960年代から1970年代の社会運動は、長らく歴史研究の対象とならず、ともすれば価値判断が先行する議論が行われ、一次資料を用いた研究の停滞や史資料を博物館展示や教育等に活かし難い状況が続いてきた。本研究は3分野の連携のもとで、成田空港 空と大地の歴史館の収蔵資料を活用した実証研究を進め、この状況を打開することを試みてきた。

研究成果の概要（英文）： In the 21st century, preserving historical materials on social movements in the second half of the 20th century is important. This joint research project used historical documents to study social movements that developed in Japanese society from the 1960s to the 1970s. It was conducted as a cross-disciplinary study of history, archival studies, and sociology. The academic significance of these historical materials was then elucidated through primary sources. In particular, we organized the issues and methods of addressing them at each stage of the collection, including organization, research use, and exhibition use of historical materials for documentary and audiovisual materials. This research clarified methods for preserving and utilizing contemporary historical materials in various forms.

研究分野：日本現代史

キーワード：20世紀 戦後史 社会運動 アーカイブズ 記録映画 オーラルヒストリー 学際研究 成田空港

1．研究開始当初の背景

戦後の日本社会では、高度成長期に、国土の均衡ある発展や人の移動の国際化などをめざした国土開発が推進された。同時期に、水俣病問題や成田空港問題などの深刻な社会紛争が住民運動として日本各地で顕在化し、また、学問研究の意義等を問うた学生運動も広範に展開された。これらの異議申し立ては、世界的同時性を有してもいた。

1960年代から1970年代にかけて異議申し立てを行った人々の動向は、欧米では歴史学や社会学等の分野で公民権運動などを事例に、早くから研究が開始されている。そして、文書資料や聞き取り記録を公開・活用する社会運動アーカイブズが大学等に設置され、研究体制が整備されている。しかしながら、わが国では、同時期の住民運動や学生運動は、少数の同時代史研究を除いて長らく歴史研究の対象とならず、一次資料を用いた研究の停滞や史資料を博物館展示や教育等に活かし難い状況が続いてきた。これらは国際的な研究動向からみても大きな損失である。

本研究は、このような研究等の状況を打開することを意図して構想した。学術研究と展示にかかわる動向として、2017年には国立歴史民俗博物館で企画展示「1968年：無数の問いの噴出の時代」(2017年10月～12月)が開催され、1960年代から1970年代の社会運動史を研究する機運が高まった。このような動向の中で、本研究は、同企画展示に参画した研究者を含む有志で開始した。

2．研究の目的

本研究は、高度成長期の日本において発生した社会運動や社会紛争の記録収集と活用を目的に、研究機関や資料館等に収蔵された社会運動資料群の形成過程と全体構造を把握し、歴史学、アーカイブズ学、社会学の領域横断的な研究により、それらが有する学術的な意義を解明することを目的としている。1960年代から1970年代の社会運動は、歴史的評価が定まりにくく、ともすれば価値判断が先行した議論が展開される傾向にある。そこで、本研究は、一次資料を用いて1960年代から1970年代の社会運動の動向を実証的に解明することに注力し、実証研究の射程を1970年代まで伸ばすことを主たる研究目的に据えた。

3．研究の方法

本研究では、研究対象として、1960年代から1970年代にかけて国内最大規模の住民運動であった三里塚闘争(成田空港反対運動)を設定した。住民運動に学生運動や市民運動の担い手が支援者として参画し、複雑な動向をたどった運動事例について、一次資料を用いた研究を行うこととした。

成田地域では、1990年代に隅谷三喜男や宇沢弘文らの研究者グループが参画して、地域住民と国等の間で、成田空港建設をめぐる対立の歴史的根源を明らかにする成田空港問題シンポジウム等が開催された。これらを契機に、同空港問題に関する史資料や証言の収集が住民と研究者の連携関係のもとで実施され、2011年に成田空港 空と大地の歴史館が現地で

開館した。同館には、約5万5千点（推計）の史資料と100名を超える関係者の証言記録が収蔵されている。これらの史資料の多くは学術研究に未活用の状態であった。

そこで、当研究プロジェクトでは、成田空港 空と大地の歴史館と連携し、同館の収蔵資料を活用した研究を進めることとした。そして、2018年度から2022年度にかけて、1)全体会議、2)合宿形式で開催する資料整理調査会、3)対面方式とオンライン方式を組み合わせた定例研究報告会を実施して、三里塚闘争に関する一次資料の整理と研究活用を進めていった。

初年度にあたる2018年度は、全体会議において成田空港 空と大地の歴史館の収蔵資料の概要確認を行うことを合意して実施し、同館収蔵資料の中でも三里塚闘争にかかわる多数の一次資料を含んだ「元小川プロダクション資料」を主たる対象として研究を進める方針を立てた。同プロダクションは1960年代から1970年代にかけて記録映画「三里塚シリーズ」を制作し、上映も自身や各地の支援者等の手で行われており、現地闘争の過程を把握することに加えて、多くが未解明の領域であった支援者の動員構造を明らかにするうえで重要な資料であると推定した。そこで、資料整理調査会を連続開催しつつ、2018年9月に現代史サマーセミナーとの併催による公開研究会「現代社会運動資料の課題と展望：三里塚闘争・空と大地の歴史館から考える」を開催して、国内外の研究者とともに現代社会運動史資料の整理と活用の可能性について討議した。

2019年度から2020年度にかけては、資料整理調査会の連続開催によって「元小川プロダクション資料」の内部構造を解明する活動を本格的に進展させ、文書資料、視聴覚資料の双方について、資料の全容解明を進めた。研究が進展するにつれて、国内外の現代史研究者と映像研究者に関心を寄せていただき、山形国際ドキュメンタリー映画祭2019や第19回日韓民衆史共同ワークショップにおいて招待報告の機会を得て、資料整理調査会の過程で得た知見を国内外の研究者や映像作家と共有し、次年度以降の学問領域を超えた研究対話の実現した。そして、日本映像学会第46回大会シンポジウム「映像アーカイブの実践と未来」(2020年9月オンライン開催)にて招待報告の機会を得て本研究の成果を報告し、映像研究者との学術交流の機会が生まれ、映像研究者と連携したアーカイブズ調査につながった。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の流行という予期せぬ事態に直面し、資料整理調査会への参加人数を絞り込むことをはじめとして、研究計画の変更を余儀なくされたが、少人数での開催に切り替えて資料整理調査会を継続した。そのうえで、オンラインを用いた定例研究報告会の回数を増やすなどの対応を行い、資料整理調査会の成果を研究チームで共有して、「元小川プロダクション資料」の内部構造の解明をさらに進展させた。圏域を超えた人の移動に制限がかかる状況であったことから、千葉県内での研究と並行して、研究代表者が研究拠点を置く長野県における記録映画「三里塚シリーズ」の市民による自主上映運動史の解明にも注力し、長野県松本市にて1970年代から同シリーズの自主上映運動を展開してきた人物から個人蔵資料の寄贈を受けて、特定地域における上映運動のケーススタディ

ィを進め、査読論文を発表した。

2021年度から2022年度にかけては、新型コロナウイルス感染症の流行に伴って大人数でおこなう資料整理調査会の実施が困難化したことから、研究期間の延長を決断した。そして、少人数での資料整理調査会や資料翻刻などを進めながら、本研究で主として進めてきた「元小川プロダクション資料」の内部構造の解明に関する定例研究報告会をオンライン方式で定例実施し、本研究の集大成として、研究成果の对外発表を行った。具体的には、2023年3月に講演会「文書・映像に記録された成田・芝山の現代史」を成田市内にて対面方式で開催して、約70名の住民や研究者に5年間の研究成果を発信した。同講演会では、1)成田空港の建設にかかる紛争過程に史学の立場からアプローチする意義に関する研究報告、2)「元小川プロダクション資料」のうち文書資料の内部構造に関する研究報告、3)成田空港 空と大地の歴史館が収蔵する多数の視聴覚資料の活用可能性と課題に関する研究報告を行い、20世紀後半の社会運動史資料の収集・整理・保全・研究や展示等への活用において、住民参加型の仕組みづくりが重要との問題提起を行った。

本研究は、1960年代から1970年代の社会運動史資料に関する総合的な調査を行い、所期の目的を達成して完了することができた。そして、研究遂行の過程において、現代史研究の領域では多くの存命者がおり、同時代経験を持つ住民・市民の協力を得ることによって、資料整理と研究や展示への史資料の活用が円滑に進むとの認識を得た。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の流行によって資料整理調査会を大人数で開催することが困難化したため、20世紀後半の社会運動史資料の収集・整理・保全・研究や展示等への活用における住民参加型の仕組みづくりは、今後に残された重要な研究課題となった。今後の研究展開においては、住民参加型の仕組みづくりの観点を重視している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 相川陽一	4. 巻 3
2. 論文標題 地方都市における自主上映者の肖像：長野県松本市における映画上映運動の個人資料を手がかりにして	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会運動史研究	6. 最初と最後の頁 51-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋山道宏・那波泰輔・韓昇熹	4. 巻 3
2. 論文標題 社会運動とメディアの連環：1960年代～70年代の新左翼系雑誌と編集者に着目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 社会運動史研究	6. 最初と最後の頁 137-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 新井勝紘	4. 巻 50（3）
2. 論文標題 「五日市憲法」が時をこえて放つ光：憲法は何のためにあるのか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 129-138
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 今井勇	4. 巻 37
2. 論文標題 戦没者遺族運動と靖国神社 - 「戦没者」をめぐる「国民的な合意」の形成 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 翰林日本学	6. 最初と最後の頁 5-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相川 陽一、森脇 孝広	4. 巻 31
2. 論文標題 戦後日本における記録映画の上映運動に関する資料収集と整理について 松本市における小川プロダクション作品の上映運動を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 記録と史料	6. 最初と最後の頁 16～29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24664/jsai.31.0_16	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相川陽一・森脇孝広・小平千文	4. 巻 107
2. 論文標題 松本市における記録映画上映運動資料の収集と活用：小川プロダクション作品を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会会報	6. 最初と最後の頁 30-31.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原山浩介	4. 巻 第22巻
2. 論文標題 太平洋戦争後のハワイにおける民主化過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史研究の最前線	6. 最初と最後の頁 32-48.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原山浩介	4. 巻 第12号
2. 論文標題 消費社会の歴史研究に向けた課題と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 同時代史研究	6. 最初と最後の頁 73-79.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原山 浩介	4. 巻 987号
2. 論文標題 アーカイブズを訪ねる：ハワイ州立公文書館から考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 45-49.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 相川 陽一	4. 巻 なし
2. 論文標題 記録する文の人、福田克彦さんとの日々	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国立国際美術館 第18回 中之島映像劇場「生存の技法：パーソナル・ドキュメンタリーの光」配布資料	6. 最初と最後の頁 7-9.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 今井 勇（討論者）
2. 発表標題 パネル22「国民国家と歴史認識」討論者
3. 学会等名 2021東アジア日本研究者協議会 第5回国際学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大川 史織・今井 勇（共同発表）
2. 発表標題 マーシャル諸島における帝国日本の記憶
3. 学会等名 韓国翰林大学日本学研究所 第39回ワークショップ「ポスト帝国が帝国を記憶する」（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 相川陽一
2. 発表標題 地域における記録映画アーカイブズの構築実践 - 小川プロダクション関連資料の収集と整理を中心に
3. 学会等名 2020年 日本映像学会大会シンポジウム「映像アーカイブの実践と未来」(関西大学 オンライン開催)(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今井勇
2. 発表標題 戦没者遺族運動と靖国神社
3. 学会等名 韓国 翰林大学日本学研究所主催 第38回ワークショップ「戦後国民国家と靖国神社・戦没者遺族」(オンライン開催)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 相川陽一
2. 発表標題 民主主義国家における少数者の権利をめぐる諸問題：成田空港問題史からの教訓
3. 学会等名 第19回 日韓民衆史共同ワークショップ(アジア民衆史研究会 - 歴史問題研究所民衆史班)(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 相川陽一・森脇孝広・小平千文
2. 発表標題 松本市における記録映画上映運動資料の収集と活用
3. 学会等名 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 第45回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 相川陽一
2. 発表標題 記憶と記録を伝える：「災害とともに生きる～台湾と日本、継続する映像記録運動」に触発されて
3. 学会等名 災害とともに生きる：台湾と日本における映像記録運動の現在：山形国際ドキュメンタリー映画祭2019（山形市制施行130周年記念事業） （招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 相川陽一
2. 発表標題 三里塚闘争資料の収集・整理・活用に関する課題と展望
3. 学会等名 2019年度 現代史サマーセミナー
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 相川陽一	4. 発行年 2020年
2. 出版社 アジア民衆史研究会 - 歴史問題研究所民衆史班	5. 総ページ数 67
3. 書名 『歴史的民主主義：第19回 日韓民衆史共同ワークショップ』（報告資料集）執筆分担範囲：pp.27-37.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	新井 勝紘 (ARAI Katsuhiko) (40222707)	専修大学・その他部局等・参与 (32634)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	原山 浩介 (HARAYAMA Kosuke) (50413894)	日本大学・法学部・教授 (32665)	
研究分担者	白井 哲哉 (SHIRAI Satoshi) (70568211)	筑波大学・図書館情報メディア系・教授 (12102)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	森脇孝広 (MORIWAKI Takahiro)		
研究協力者	今井勇 (IMAI Takeshi)		
研究協力者	金子美佐子 (KANEKO Misako)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------